

お弁当ですよ



六月二十五日、三和地区で一人暮らしのお年寄りを対象とした、給食サービスが始まりました。

これは「ふれあいのまちづくり事業」の一環として三和地区の社会福祉協議会、食生活改善推進委員会、民生委員協議会で組織する給食協議会が行うもので毎月一回実施。お年寄りのふれあいをかるとともに、地域の方々に福祉への関心をもってもらうことが目的で、約三十人のボランティアの方が交代で調理にあたります。

この日は、大町市長も参加し、お年寄り二十五人に手作りのお弁当と七夕飾りを配布。お弁当を受け取ったお年寄りは、「一人暮らしだと食事もおろそかになりがち。こうしてお弁当を届けてもらえるのはありがたい」と感謝していました。

黒潮ラインを花街道に

十市の老人クラブ「はまなす会(代表村田晃)」のメンバー40人ほどが、県道春野赤岡線の峠寺トンネル東側から十市郵便局の間に、ペチニア、ケイトウ、コスモスなどを植えています。

これは、黒潮ラインを花街道のようにしようとしているもので、花は知人に頼み、資金もお祭りで出店を出すなどしてまかっています。

代表の村田さんによると、「自分たちが楽しみながら、みんなに喜んでもらえるのがいいです。ゆくゆくはひまわり街道にしたい」そうです。



吾岡山公園をめざし



七月二日、大磯地区の住民らで組織する吾岡山周辺環境整備協議会(溝淵勇会長)が吾岡山にサツキの苗木約千五百本を植えました。

昭和五十八年の空港拡張をきっかけに、吾岡山を市民の憩える公園にしようという事で協議会を結成、遊歩道やあすまやを作るなど、活動を続けてきました。

この日参加した五十人ほどは、照りつける太陽のもと、汗だくになりながら植栽作業をしていました。

南国文化を高めるために

南国市に文化ホールの建設を願って、活動を続けている主婦グループ「文化の春を育てる会」が六月十九日南国市商工会館で、チャリティ舞踊会を開催。

昨年五月に結成されたこの会は、ママさんコーラス発表会に続いて、今回が二回目の取り組み。この日は七十人の舞踊家が出演し、見事な舞いを次々と披露。集まった約五百人の観衆は、真剣に見入っていました。また、会場入り口では、チャリティバザーも行われ、収益金は文化ホール建設資金に使われます。



▲6月19日、市民体育館ほか2会場で、教育長杯スカッシュバレーボール大会が行われました。参加45チームは、和気あいあいとした中にも、真剣にプレーをしていました。



▲昨年9月から工事が進められていた、久礼田小学校の給食棟が完成。潤いのある木を基調とした近代的な給食棟の落成式が6月18日に行われました。

▼6月24日、南国市葉たばこ推進協議会は、生産技術の向上と農家同士の情報交換などを目的に、作物品評会を開催。審査には日本たばこ技術職員など4人があたり、収穫前の畑21か所を見て廻りました。

今年は、例年のない良い作物で、審査にも熱がこもっていました。



▼昨年4月にオープンした「はらたいらと世界のオルゴールの館」の入館者が、6月20日、10万人を突破。山梨県から来高中の方が、運よく10万人目の記念品を受け取りました。



▲6月20日、保健福祉センターで、「マタニティー教室」が行われました。

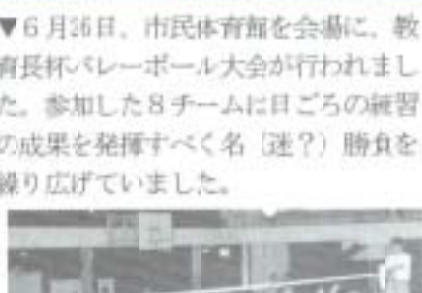
この教室は、妊娠中の毎日を、安心して、健やかに過ごすために「これからママの集い」と銘打って、市の主催で行われたもの。この日は赤ちゃんの沐浴などについて、保健婦さんから指導を受けた後、先輩ママと赤ちゃんとの交流も行われました。



▲6月24日、十市農協園芸部出荷場で「十市果樹研究会」のメンバー10人ほどが、無添加スモージュースの仕込み作業を行いました。このジュース、「野鳥天国」という商品名で1000本が売りに出されました。



▶第四十四回社会を明るくする運動の一環として、南国地区保護士会などが街頭キャンペーンを行いました。参加した二十人ほどは、17夜免状や市内の農協などで、犯罪や非行のない社会づくりを訴えて、チラシやうたわを配りました。



▲かねてから合併に合意、その準備が進められていた南国市、高知三和、岩村農協が7月1日、新J-A南国市としてスタート。合併による利点を生かしながら、地域に根ざしたJAをめざします。

▶七月六日、十市の石土神社で大護摩供養祈願祭が行われました。祭りはまず、境内中央の護摩壇に火がつけられ、願いを書いた護摩札を山伏姿の行者が火の中へ。火が燃え尽きると参加した六百人は、家内安全や五穀豊稔を祈願して、火渡りの儀式を行いました。